

# 「チャレンジ! 防災48」とは？

## ◆ 考え方

地域の安全・安心のためには、小さい頃から防災の知識を身につけることが重要です。本教材を活用することにより、災害時における身の安全の確保に加え、初期消火や救出・救助など実践的な行動につながるような力を身につけることを目的としています。また映像・写真により、実際の災害の怖さや迫力を体感することができます。

教材については、年代別に配慮し、「小学校低学年」「小学校高学年」「中学生以上（地域住民の方を含む）」の3段階を想定しています。

## ◆ 活用場面

各学校の「特別活動（学級活動、学校行事など）」、「総合的な学習の時間」等や放課後や週末等に実施する放課後子ども教室、地域の防災訓練等の様々な機会が考えられます。各市町村教育委員会と相談のうえ、消防職団員をはじめ、防災担当職員等が防災教育を行う機会の確保に向けて取り組んでいただくようお願いいたします。

この際、都道府県及び市町村の消防防災担当部局においては、教育委員会学校安全主管課及び生涯学習・社会教育主管課並びに各学校との連携を図っていただくようお願いします。

消防活動を知ってもらうため、また、放水訓練や救助訓練などの体験を通じて豊かな感性や自主性を伸ばす手助けができるように、各消防署では、中学生の職業体験の受け入れに積極的なご協力をお願いします。

※消防職団員の方が本教材を使うときは…

はじめに自己紹介をしていただき、消防職団員は日頃どんなことをしているか、その魅力についてお話しいただくとともに、何にやりがいを感じているかお話ししていただくようお願いいたします。また、地域での過去の災害を踏まえるなど地域の実情に応じ工夫をしていただければ、より効果が高まります。

## ◆ 内容

本教材では、以下のものをご提供しております。

- ① 指導者用テキスト
- ② 実技・演習等を補完する補助教材
- ③ 災害に関する映像・写真
- ④ 参考資料

本教材の内容については、総務省消防庁の「防災・危機管理e-カレッジ」(<http://open.fdma.go.jp/e-college/>)からダウンロードできます(一部の映像素材を除きます)。

※「防災・危機管理e-カレッジ」とは、総務省消防庁が運営しているサイトで、地域住民の方々、消防職員・消防団員、地方公務員等の方々に、インターネット上で防災・危機管理に関する学びの場を提供しています。

# 本教材の使い方

## ◆ 各資料の使い方

### 1. 指導者用テキスト

指導者の方が指導する際に使用するものです。

### 2. 実技・演習等を補完する補助教材

参加者への配布(左肩に[配布用])、並びに指導者の補足説明(左肩に[指導者用])などで使用するものです。

### 3. 災害に関する映像・写真

実技・演習等を行う前に、使用するものです。また、映像だけを単独で使用しても結構です。

### 4. 参考資料

関係機関・団体で作成した報告書やパンフレットなどを掲載しています。

提供：東京消防庁



提供：東京消防庁



提供：東京消防庁

# ◆ 本編資料の解説

**1** 技を伝える

**36** 毛布で応急担架をつくらう！

竹竿や物干し竿などの棒、毛布など身のまわりにあるもので応急的に担架を作成する体験をします。

**2** **!** 工夫を凝らせば毛布などの身近なものが役立つこと、助け合いや協力の重要性を学びます。

**3** a b c d

**4** 実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

**1** 導入（5分）

過去の災害で大きな被害が出たとき、ケガ人や急病人を運ぶ担架が不足気味で、量や布団、毛布、戸板など身近にあるものを利用して運びました。今日は、身近にあるもので担架を作って、実際に運んでみる体験をしてもらおうと話します。

**2** 担架の作成と搬送体験（10分）

**1** 担架の作成方法の説明 / 資料36-1を使って、「応急担架の作り方」を説明します。あらかじめケガ人をグループ分けし（1グループ各程度）、指定の敷き毛布と竹竿・モップの棒、竹ぼうきなどでもよい）を準備します。担架を運ぶときはグループで協力するようにします。

**2** 担架作成 / 毛布担架を作成してもらいます。資料36-1「応急担架の作り方」の図を参考に、ポイントに注意しながら実際に担架を作って実演します。

**3** 搬送体験 / グループのなかで一人がケガ人や急病人役になって担架に乗り、残った人が担架を運びます。運ぶときのポイントをきちんと説明してください。

- ・事故防止の観点から、担架を持ち上げる際には、地面の状態を確認し、衝撃が強いようゆっくりと。
- ・上げ降ろしには声をかけて一斉に！ リーダーを決めて、一斉に上げ降ろす。バラバラだとケガ人や急病人が斜めになり落下の危険がある。
- ・持ち上げる姿勢に注意！ 重たいものを持ち上げるときは、腰を曲めやすいので背筋を伸ばして持ち上げろ。

**3** 感想・振り返り（5分）

実際に運んでみた、思った感想を聞きましょう。今回の毛布と竹竿以外にも、身近なものが防災に役立つこと（例えばラップは、止血や体にかけて保護するのに使える）を教えます。

その他、指導者の経験などからまとめの話をしてください。

**5** **!** 指導ポイント

身のまわりのものが担架として活用できる例をいくつか紹介し、工夫すればこれらも役に立つことを学んでもらうことが重要です。（竹竿の代わりにモップの柄や竹ぼうきなどを使う、量が担架になることなど。）

**6** **!** 自主防災組織の関わり方

応急手当指導員・普及員の資格を持っている方は、指導や実技指導補助をお願いします。

**7** **!** 準備するもの（目安）

準備品	数	備考
資料「応急担架の作り方」	人数分	資料36-1（配付用）
毛布	4～5人に1枚程度	
竹竿などの棒	毛布1枚につき2本	モップの柄、竹ぼうきなどでもよい
訓練用人形	必要に応じて	事前に消防署に確認してください

**8** **!** 家庭への持ち帰り

学習した担架の作り方や、担架の代わりに使用できるものがないか、保護者と考えるように指導してください。

**9** **!** このメニューに関する+αの知識

- 担架に乗せる人や人形などが軽すぎると毛布の摩擦力が弱く、滑ってしまふことがあります。
- ケガの状態にもよりますが、脚が少し高くなる状態を保ちながら運ぶのが基本です。
- 「イチ・ニ、イチ・ニ」とかけ声をかけ、ケガ人や急病人への振動がなくなるように気をつけて運びます。

**10** **!** ひと工夫

- 竹馬など、子どもたちにとって身近なもので代わりに使えそうなものを皆で話し合おう、工夫次第で役立つものがあることを実感できます。
- 毛布だけでも実施可能です。（端を丸めて担架になります。）

**11** **!** 注意事項

- ケガ人や急病人役の落下等に十分注意をしましょう。場合によっては運ぶところまでせずに、少し持ち上げる程度に留めておきましょう。
- 担架を持ち上げるときには、腰などを痛めることがないよう、無理をせず正しい姿勢（背筋を伸ばしたまま、足の筋力で立ち上がる）で持ち上げるようにしましょう。

**12** **!** 子どもたちの声

- ・ 重たかったです。
- ・ 担架があんなに簡単に作れるなんてびっくりしました。
- ・ 200kgの人だったら落ちるんじゃないかな。
- ・ 震災でケガした人運べる訓練ができてよかったんです。
- ・ これで受けられるからうれしいです。

## 1 タイトル

本編テーマのタイトルです。1～49まであります。

## 2 学習の目標

各テーマの目標を示しています。

## 3 補足アイコン

全部で4つのアイコンがあります。

### ① 対象（左から1番目）

「小学校低学年」「小学校高学年」「中学生以上」のうち、どれを対象にしているかを示しています。

### ② 学習形態（左から2番目）

「実技」「演習」「講義」のうち、どの学習形態かを示しています。

### ③ 実施場所（左から3番目）

「屋内」「屋外」「教室」のうち、どの実施場所かを示しています。

### ④ 実施時間（左から4番目）

学習を実施するためにかかる時間を示しています。

## 4 実施内容

実施すべき内容を示しています。指導者は、ここを見ながら実技や演習を進めていくこととなります。

## 5 指導ポイント

指導をする際にポイントとなる点です。指導する際にここをチェックします。

## 6 自主防災組織の関わり方

自主防災組織の関わり方です。自主防災組織の方々への協力依頼の説明の際に活用してください。

## 7 準備するもの

準備するもの（目安）です。事前に準備する際にチェックしてください。

## 8 家庭への持ち帰り

家庭へ持ち帰るべき点です。学習が終わる際に参加者に伝えてください。

## 9 このメニューに関する+αの知識

各テーマを実施する上で、知っておくと便利な知識について示しています。講評などの際に参加者に伝えてください。

## 10 ひと工夫

指導する際の工夫を示しています。

## 11 注意事項

指導する際に注意すべき留意点を示しています。必ず目を通してから指導を実施してください。

## 12 子どもたちの声

実施した際の子どもたちの感想を記したものです。